

## 「マレーシア：サバ州、サラワク州開発計画を発表」

三菱東京UFJ銀行  
アジア法人業務部

マレーシア政府は、サバ州、サラワク州の開発計画を発表した。以下に概要を記載する。なお、マレーシア政府は、既にマレー半島部において、①「ジョホール州南部に『イスカンダル開発地域』」、②「北部回廊経済地域(プルリス州、クダ州、ペナン州)」、③「東海岸回廊開発計画(クランタン州、トレンガヌ州、パハン州)」の開発計画を発表している(詳細は Area Report 145 ご参照)。

### 1. 「サバ州開発計画(Sabah Development Corridor Blue Print 2008—2025)」

2008年1月29日、マレーシア政府は東部ボルネオ島サバ州開発計画(以下 SDC)の内容を発表した。地域内総生産(GDP)を2006年時点の160億リンギットから、2025年には632億リンギットに引き上げる目標を掲げている。サバ州は、石油、天然ガス等エネルギー資源に恵まれているが、経済力ではマレー半島よりも劣るため、政府が底上げを図るもの。観光、物流、農業、製造分野をバランス良く発展させる方針で、それぞれの分野に目標を設けている。また、90万人の雇用創出により、失業率を2006年の5.8%から、2025年には3.5%まで低減させ、貧困問題の解決にも注力する方針である。

#### (1) サバ州の概要

インドシナ半島東部、ボルネオ(カリマンタン)島の北部に立地し、ブルネイに隣接している。人口306万人、面積76,115km<sup>2</sup>。州の大半がジャングルに覆われており、世界遺産にも登録されたキナバル国立公園や東南アジア最高峰のキナバル山(標高4,101m)もサバ州にある。州都のコタキナバルの周辺には、大規模なビーチ・リゾートが開発されている。



#### 【サバ州概要】

- ・ 面積 76,115km<sup>2</sup>(北海道の約9割)
- ・ 人口 306万人
- ・ 州都 コタキナバル

#### 【サラワク州概要】

- ・ 面積 124,450km<sup>2</sup>(日本の本州の約半分)
- ・ 人口 235万人
- ・ 州都 クチン

\* US\$ 1 = 3.23 リンギット(2008年2月現在)

サバ州は三つの地域に分けられ、西部地域は州都コタキナバル、国際空港、サパンガル・ベイ・コンテナ港(SBCP)を擁する。内陸地域は農業、畜産、観光業が盛んである。東部はパームオイル・プランテーションが多く立地、またサバ州第二の大都市であるサンダカン(Sandakan)は、教育のハブとしてバイオ研究、環境研究分野に力を入れている。サバ州第三の都市タワウ(Tawau)は、ココア、家畜業等の農業食品の生産地、東南部の物流、観光の入り口となっている(サバ州地図は別紙をご参照)。

2007年にはサパンガル・ベイ・コンテナ港(SBCP)が操業を開始。コタキナバル港やサンダカン港、タワウ港のコンテナ取り扱い業務が移管され、将来的には同州のコンテナ拠点としての機能を持つ予定。主な輸出製品は、パームオイル関連製品、石油、ベニア板等の木材、ゴム、メタノールである。輸入製品は、機械装置、輸送設備、鉱物燃料、医療製品、食料である。

同州に対する投資は、油田開発等の資源開発投資が盛んになっている。近年、同州沖では新たな油田やガス田が発見されている。パームオイルの産出地でもあるため、バイオ燃料の研究、精製施設の設立も続いている。また、最近では中国系企業がコタキナバルにおいて不動産複合施設開発に乗り出している等、不動産開発投資も盛んになってきている。

#### 【サバ州の主要指標】

	2005年	2006年	2007年
人口(単位:万人)	293	300	306
GDP成長率	5.08%	5.50%	6.00%(見込み)
インフレ率	—	3.70%	2.10%(1月~11月)
労働力人口(単位:万人)	121	126	131(第2四半期)
失業率	6.30%	5.80%	5.90%(第2四半期)
総輸出額(単位:百万リングgit)	23,899	27,115	19,948(1月~8月)
総輸入額(単位:百万リングgit)	18,974	21,795	16,684(1月~8月)

(出所)SDCオフィシャルサイトを参考に三菱東京UFJ銀行アジア法人業務部作成

## (2) 開発計画の概要

サバ州はフィリピン、中国、日本に近いという立地条件、石油、ガス等の恵まれた資源にもかかわらず、マレー半島の諸州に比べ経済的に劣っていた。今回のSDC開発計画は政府主導により同州開発の底上げを図るものである。マレーシア政府は114億リングgitの開発予算に加え、経済的インパクトの大きいプロジェクトを対象として、追加で50億リングgitを拠出する。また、同州へ投資する外国企業に対しては、投資インセンティブを付与する。サバ州のムサ・アマン州首相は「産業の高度化」、「バランスの取れた経済促進」、「環境保護を通しての持続可能な成長」を掲げている。計画期間は2025年までの18年間、目標を3期間に分けて開発する。開発は、同州政府系の社会経済開発財団ヤヤサン・サバが中心となっていく。開発期間中1,050億リングgitの投資を呼び込む計画。

**第一期計画(2008年~2010年):**立ち上げ段階として、経済イニシアチブの明確化、インフラの整備、貧困撲滅に注力する。

**第二期計画(2011年~2015年):**加速段階として、高付加価値製品の生産、グローバル企業の誘致、川下加工業者の発展により、GDPを現在の2倍となる320億リングgitにする。

**第三期計画(2016年~2025年):**2025年にはGDPは現在の4倍となる632億リングgitを目指す。州都コタキナバルをアジアでもっとも住みやすい都市の一つにし、サバ州をインフラ整備、労働力の高度化によりアジアでも有数の外国直接投資(FDI)を呼び込める地域にする。

### (3) 開発計画の内容

SDC開発計画は「観光分野」、「物流分野」、「農業分野」、「工業分野」の4つの分野の開発からなる。それぞれの分野に目標を定めている。

#### ①観光分野

高収益、長期滞在の旅行者をターゲットとする。エコ・ツーリズム、最高級の別荘、ビラが立ち並ぶ地域としての開発を進め、また、ホーム・ステイ、ハンディー・クラフト(手工芸品)産業の促進を図る。2007年8月には「レインフォレスト・ディスカバリー・センター」を開設した。同施設では、環境をテーマとしたツアーの開催、住民の環境保護意識の啓発等の活動を行なう。

地域の観光収入(2006年時点28億8,000万リンギット)を2012年までには80億リンギットに、2025年までには485億リンギットにすることを目指す。ハンディー・クラフト、ホーム・ステイによる収入(2006年時点160万リンギット)を2012年には450万リンギットに、2025年には4,800万リンギットまで伸ばす。また、旅行者一人あたりの消費(2006年時点2,517リンギット)を2012年には3,383リンギット、2025年には5,364リンギットまで押し上げる。

#### ②物流分野

物流分野の開発として、他の州よりも割高といわれているサバ州の物流コストを改善することが挙げられている。以下の3点を実行し、今後18年間で、海上コンテナ数(2006年時点226,721TEU)を2012年には51,100TEU、2025年には1,500万TEUに増やす計画である。

- A) カボタージュ・ポリシー(自国内の輸送を自国の航空機または船に限定すること)を見直し、他の国際港湾のオペレーター、定期船との連携によりコストの低減を図る。
- B) サパンガル・ベイ・コンテナ・ポート(SBCP)にサパンガル・フリー・ゾーン(SFZ)のステータスを付与することによって、同コンテナ・ポートに投資する企業に投資インセンティブを与える。
- C) サンダンカン(Sandakan)を地域における貿易のハブとして、Sandakan Intergraded Trade Exchange Terminal(SITEXT)を伸張し、AFTA(※ASEAN自由貿易地域)を活用できるようにする。

#### ※AFTA

AFTA(ASEAN自由貿易地域)とは、Asean Free Trade Areaの略で、ASEAN(東南アジア諸国連合)域内で関税を0~5%程度に引き下げ、EU(欧州連合)や北米自由貿易協定(NAFTA)に匹敵する自由貿易地域をつくらうという構想のこと。

1993年1月にマレーシア、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイの6カ国(以下原加盟6カ国)が結ぶ共通効果特惠関税(CEPT: Common Effective Preferential Tariff)協定を基本にスタートした。

CEPT適用品目の関税引き下げスケジュールとして、0~5%への引き下げ期限は、原加盟6カ国が2003年、新加盟4カ国はベトナムが2006年、ミャンマー・ラオスが2008年、カンボ

ジャが 2010 年。関税撤廃の時期は、原加盟 6 カ国が 2010 年、新加盟 4 カ国は 2015 年となっている。但し、新加盟国分については状況に合わせた例外措置が認められている。関税の引き下げにより、原材料や部品などが域内で調達しやすくなるため、生産拠点として日本企業からも期待されている。

### ③農業分野

自給率の向上、輸出拡大、貧困撲滅のため高付加価値の作物を生産する。そのために、バイオテクノロジー、R&D を駆使し、生産性の向上に努める。養殖、畜産、園芸、深海漁業 (Deep See Fishing) の展開も促進する。特にパームオイルはバイオ燃料の原料として期待されているため、引き続き主たる生産品として、効率化、収益力向上、市場性付加のため産業を育成していく。また、新しいバイオ燃料の原料として期待される「※ジャトロファ (Jatropha)」等の研究も推進する。

地域の農業分野の貿易収支は 2005 年 9 億 5,500 万リンギットの赤字となっているが、2025 年には 3 億 5,300 万リンギットの赤字に赤字幅を低減する予定。農業分野の域内 GDP (2005 年時点 41 億リンギット) を 2025 年には 170 億リンギットに伸ばす方針。

※ジャトロファ (Jatropha、日本名：ナンヨウアブラギリ)

ジャトロファ (別名ヤトロファ) とは中南米原産の落葉低木。やせた土地でも育ち、旱魃や病気にも強く、油分にも富むことから広く栽培されてきた。近年は植物性バイオディーゼル燃料の材料として脚光を浴びている。中国系、韓国系企業が数社インドネシア、マレーシア、フィリピン等に大規模プランテーションを設立、栽培を計画している。日系企業も R&D センターを設立し、研究・開発を進めている。

### ④工業分野

サバ州に石油、ガス、パームオイルに関連する企業を誘致するため、インフラ整備、豊富な人材供給を通じて同州をアピールしていく。また、ビジネス・アドバイス・サービス等を通して中小企業の振興を図り、パイオニア・ステータス等の税制優遇も行う予定。

今後、資本投資を 2006 年の 2 億 800 万リンギットから 2025 年には 29 億 6,000 万リンギットに伸ばす方針。製造業セクターで働く労働者数も 2006 年の 13 万 5,000 人から、2025 年までには 22 万 8,000 人に増加させる計画。

○SDC 開発計画の詳細については、下記 SDC オフィシャルサイトをご参照。

[http://www.sdc.gov.my/sabahdc/index.php?option=com\\_frontpage&Itemid=1](http://www.sdc.gov.my/sabahdc/index.php?option=com_frontpage&Itemid=1)

#### (4) サバ州への投資事例

日系企業は数社がサバ州に投資しているが、今回は最近の投資事例として、ヤンマー株式会社のケースを挙げる。

##### ヤンマー株式会社マレーシアにおける研究拠点

##### 「Yanmar Kota Kinabalu R&D Center」を開設

2008年1月31日ヤンマー株式会社は、マレーシア・サバ州にて、海外初の研究拠点「Yanmar Kota Kinabalu R&D Center」(以下 YKRC)を開設した。

近年、地球温暖化防止に向け、生物由来のバイオ燃料が注目されており、同社でも廃食油・菜種油・パーム油など各種植物油を原料としたバイオディーゼル燃料(FAME:Fatty Acid Methyl Ester)による試験・研究を国内外で実施している。

今回、開設した YKRC では、パーム油に代表されるバイオディーゼル燃料が大量かつ安定的に入手しやすい立地のもと、廃食油の他、非食用油であるジャトロファなど各種バイオディーゼル燃料によるエンジン耐久試験を行うとともに、同燃料使用時のエンジン潤滑油への影響などを調査・分析する。

また、将来的には、バイオディーゼル燃料の研究のみならず、バイオガス等、アジア地域のバイオマス利用技術や養殖技術などにより、環境情報発信拠点としての機能ならびにアジア地域のニーズに基づいた研究開発も担っていく予定。

##### ■YKRC概要

・名称	Yanmar Kota Kinabalu R&D Center(ヤンマー・コタキナバル・R&D・センター)
・所在地	マレーシア国 サバ州コタキナバル市 コタキナバル工業団地内
・敷地面積	12,000m <sup>2</sup>
・建物面積	1,154m <sup>2</sup>
・人員	20名
・投資額	4億円
・研究内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バイオディーゼル燃料を使用したエンジンの耐久性試験</li> <li>2. インド、英国で進めているバイオディーゼル燃料実証試験の監視・管理</li> <li>3. 燃料、潤滑油の分析、分析技術の高度化、研究受託</li> </ol> <p>【将来的に】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 自然環境関連技術の研究拠点、環境情報発信センター</li> <li>5. アジアの技術ハブ拠点として、地域ニーズに基づいた商品開発、研究</li> </ol>

## 2. サラワク州経済開発計画

### ～サラワク州エネルギー回廊(The Sarawak Corridor of Renewal Energy)～

2008年2月11日、アブドラ首相は、サラワク州の開発計画として「サラワク州エネルギー回廊(以下SCORE)」を発表した。政府は本プロジェクトに50億リングット拠出する。サラワク州の豊かな資源に着目し、水資源、石炭、天然ガス、石油を活用したエネルギー事業に注力する。開発期間の終わる2030年までに3,000億リングットの民間投資を見込んでいる。また、貧困撲滅のため80万人の雇用創出を掲げた。本プロジェクトは、南シナ海に面するボルネオ海岸沿い320kmにわたるもので、開発面積は同州の57%、7万700km<sup>2</sup>を計画している。開発地域の人口は約60万人。また、この発表にあたり、鉱業大手リオ・ティント(豪州)等の民間企業と13の覚書を交わした。

#### 開発計画の概要

開発の方向性として以下の5つを挙げている。

- ① シミラジャウ(北部)、ムカ(中部)、タンジュン・マニス(南部)の三つの都市への積極的な投資の呼び込み。
- ② 回廊都市間の輸送インフラ、通信システムの整備。
- ③ 水力発電等エネルギー供給施設開発の促進。
- ④ 新たな教育施設の設置、技術のある外国人労働者受け入れ等による人材開発。
- ⑤ 北部のリゾート・ビーチや水力発電施設上流の湖の整備による観光業の発展。

サラワク州は天然資源に恵まれ、水力発電の潜在能力は20,000メガワット、石炭の埋蔵量15億トン、天然ガスの埋蔵量40兆9,000平方フィートと見積もられている。政府は、各資源活用のため、重点的に育成する産業として、石油、アルミニウム、鉄鋼、ガラス、観光、パームオイル、木材、畜産、養殖、マリーンエンジニアリングを挙げている。

開発の中心となる都市は、シミラジャウ(北部)、ムカ(中部)、タンジュン・マニス(南部)、の三つの都市になる。シミラジャウは重工業地域として開発、ムカは回廊の中心的な都市としての役割を、タンジュン・マニスは工業用の港湾として開発する。

政府は投資インセンティブとして、インフラ整備に係る補助金、輸入関税の免除、貨物輸送料に対する補助を行う。特にSCOREにおいて重要な投資については、土地の使用料、水道料、電力料、ガス料の減免等を提案している。

○SCOREの詳細については下記サイトをご参照。

<http://www.sarawakcore.com.my/?mainpageid=home>

《ご参照》

マレーシア関連レポート

- ・ 「Area Report 143 マレーシア 2008 年度予算案」 2007 年 9 月 21 日
- ・ 「Area Report 145 マレーシア：ジョホール南部『不動産開発』優遇措置」 2007 年 10 月 26 日

(本レポートに関するお問い合わせ先)

アジア法人業務部

北村広明

E-mail: hiroaki\_kitamura@sg.mufg.jp

TEL: (シンガポール)65-6231786

宮崎 治

E-mail: miyazaki@sg.mufg.jp

TEL: (シンガポール)65-6231793

※ 本レポートは情報の提供を目的に作成しておりますが、お取引の最終判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。資料は信頼できると思われるソースを基に作成しておりますが完全性を保証するものではありません。

# マレーシア: サバ州地図

(サバ州開発計画: 2008年発表)

三菱東京UFJ銀行アジア法人業務部作成

2008年3月現在 © 三菱東京UFJ銀行

禁転載

◎ Regional Growth Centre

○ Sub-Regional Growth Centre

南シナ海

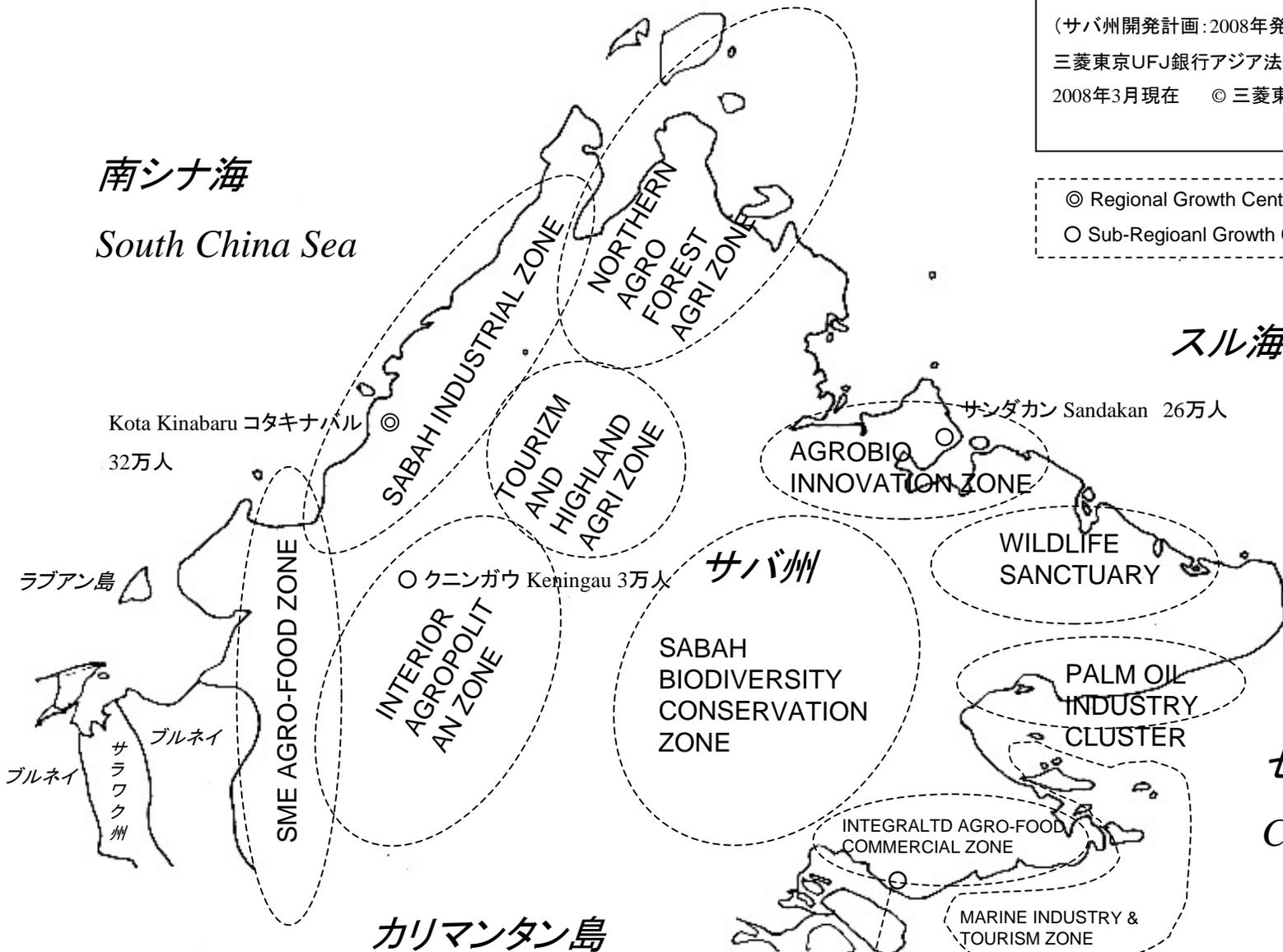
South China Sea

スル海 Suru Sea



セレベス海

Celebes Sea



Kota Kinabaru コタキナバル ◎  
32万人

サンダカン Sandakan 26万人

○ ケニンガウ Keningau 3万人

サバ州

SABAH  
BIODIVERSITY  
CONSERVATION  
ZONE

WILDLIFE  
SANCTUARY

PALM OIL  
INDUSTRY  
CLUSTER

INTEGRALTD AGRO-FOOD  
COMMERCIAL ZONE

MARINE INDUSTRY &  
TOURISM ZONE

カリマンタン島

16万人 Tawau タワウ

# マレーシア：サラワク州地図

(サラワク州開発計画：2008年発表)

三菱東京UFJ銀行アジア法人業務部作成

2008年3月現在 © 三菱東京UFJ銀行

禁転載

◎印のムカ、タンジュン・マニス、シミラジャウの3つが成長の核である。

AREA 154 付録

